

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2023

とき 令和5年11月1日(水)・2日(木)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

かなくらやまこふん

金蔵山古墳 岡山市中区沢田・円山

操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長約158mを測り、古墳時代前期末から中期初頭ごろに築造されたと考えられます。古墳保護のため、平成23年度以降、測量調査や継続的な範囲確認調査を実施しており、史跡指定を目指しています。これまでの調査では、墳丘に造り出しや島状遺構の付属施設が存在することや、裾部から墳頂部にいたるまでの斜面やテラスの構造が明らかになっています。また、調査に伴って出土した埴輪も多種多様です。

令和4年度は後円部の第2段テラスと墳頂部を発掘しました。第2段テラスでは、第3段斜面の葺石とテラスの円礫堆が残っていましたが、埴輪列は残っていませんでした。トレンチ20-1では墳頂平坦面の外寄りに埴輪列を確認しました。埴輪は径が40~50cmの大型埴輪ですが上部構造はわかりません。斜面の盛土下で葺石が見つかるなど、墳丘構造を考えるうえで大切な成果が得られました。トレンチ21では墳頂部の埴輪列、斜面葺石、斜道部の埴輪列と石材を確認しました。後円部から前方部への接続方法や石材の配置方法などがわかりました。しかし、トレンチ20-1でみつかった埴輪列とは大きさや配置が異なるなど課題も残されています。

つくりやまこふん

造山古墳 岡山市北区新庄下

墳長350mの古墳時代中期の前方後円墳で、全国第4位の規模を有します。岡山市教育委員会では平成26年度より古墳群の保存整備を目的として範囲等確認調査を継続的に実施しています。

古墳の墳頂は備中高松城水攻めの際に砦として利用されており、後円部墳頂付近には曲輪や土塁、竪堀など当該期の遺構が残っています。令和4年度は、墳頂部の保存・整備に先立って、城郭など当該期の遺構を確認するため、後円部墳頂の発掘調査を行いました。

今回は後円部の中心から北東と南東に向かってL字型のトレンチを設定し、調査を行いました。後円部中心付近から北東方向にのびるトレンチでは柱穴群を検出し、中世から近世にかけて墳頂部が利用・改変されていることが明らかになりました。また、後円部中心付近で方形埴輪列を構成したとみられる形象埴輪(家、蓋、盾、靱形埴輪)や玉砂利が、北東側の墳丘斜面部の堆積土内から多数出土したことから、後円部中心付近の土を北東側の墳丘斜面に寄せる改変があったことが判明しました。

まんとみとうだいじかわらがまあと

万富東大寺瓦窯跡 岡山市東区瀬戸町万富

吉井川右岸の低丘陵を中心に築かれた窯跡群で、鎌倉時代の東大寺再建に際し瓦を焼成した窯跡として学史的にも著名です。窯跡の保存整備事業として岡山市教育委員会では令和3年度から範囲確認調査を始めました。令和4年度は過去に発見された窯跡や遺構の正確な位置と規模の確認を目的に大寺山地区の南側を発掘しました。

調査の結果、東側では11~13号窯の計3基の窯を確認できました。3基とも有牀式の平窯で、中でも13号窯は残存長6.5m、最大幅2.8m、分焰牀が3条以上伴います。規模、構造共に他の窯と

大きく異なり、今後さらに詳細な調査が求められます。西側では過去の調査で竪穴遺構の

存在が確認されていましたが、今回の調査によって粘土採掘坑や灰原の複合体である可能性が出てきました。

トレンチ全体での出土遺物は平

瓦が大半を占め、丸瓦や軒瓦は1割ほどです。その中には『東大寺』の刻印を持つ瓦なども見つかりました。そのほかにも土師器や土師質土器、瓦質土器、石硯の破片などが出土しました。

